

株主メモ

Shareholders Memo

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法	電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

株主優待

当社は株主優待制度として、毎年2月20日現在の株主様名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、株主様ご優待品を進呈いたしておりますが、2022年6月28日付の開示でお知らせしましたとおり、現在の経営環境並びに将来への成長投資に向け、財務状況を改善することが最優先課題であると考え、慎重に議論を重ねました結果、2023年2月20日を基準とする株主優待より休止しております。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値向上に取り組むとともに、株主優待制度につきましては、業績の安定化並びに財務状況の改善を成し遂げたのちに再開させて頂く予定です。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

報告書WEB化のお知らせ

株主の皆様へご送付しておりました報告書につきましては、地球環境等を配慮した省資源化の観点から、第39期第2四半期より紙面による発送を取り止め、当社ウェブサイト(<http://www.palemo.co.jp/ir/stockholders.html>)に掲載することいたしました。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%） 軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。

これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

＊配当金に関する支払調書

＊単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。

株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

株式市場移行のお知らせ

当社株式は、東京証券取引所並びに名古屋証券取引所の市場再編により、東京証券取引所市場第二部からスタンダード市場へ、名古屋証券取引所市場第二部からメイン市場へ移行いたしました。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成 20 年 2 月 15 日
登録番号 C 0 0 2 4

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。



第39期 第2四半期報告書
[2023.2.21.～2023.8.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



パレモ・ホールディングス株式会社
証券コード:2778



中期経営計画の着実な遂行により、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります

当社グループにおきましては、業績の早期回復と収益の安定化を目的とした3ヶ年の「中期経営計画」をスタートしており、初年度となる前期においては2期連続の赤字から黒字へと回復を果たしております。そして折り返し地点となる今期については、これまでの取り組みを基盤として、収益の改善が進んだアパレルにおけるトップラインの向上と、雑貨を中心とした成長事業への投資を継続し、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

代表取締役社長

福井 正弘

指針

正しい経営 | ローコスト経営
安定成長 | 人財経営

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第39期第2四半期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第39期第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化に伴い各種イベントの復活が相次ぐなどリバウンド需要が高まりを見せ、個人消費は緩やかな回復が続いております。また新型コロナウイルス感染症拡大前の8割にまで急回復が進むインバウンド需要にも支えられ、景気は回復基調となりました。一方で、ガソリン、電気、ガスなどのエネルギー価格の高騰のほか、円安による物価の上昇など、消費者の生活防衛意識の高まりが懸念されるなど、先行きは不透明な状況で推移しました。

当社グループが属する専門店業界におきましては、コロナ禍で生活や働き方が様変わりしたことや、サステナビリティの流れもあり、価格と価値のバランス、品質の良さや長く使える商品が選ばれる傾向が強まりました。また、消費行動はリバウンド需要もあり、リアル店舗での購買が増え、引き続きOMO（デジタルとリアル融合）が求められる状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「中期経営計画」（事業再構築計画）の2年目として、安定的な収益の二本柱体制（アパレル、雑貨）を確立するための事業構

造改革を更に推進させるとともに、安定売上確保のための仕入れ、在庫管理を行うガバナンス体制の強化を推し進めております。

この上半期は、外出着需要の回復を背景にアパレルの収益改善が進んだほか、雑貨における300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」の新規出店が進行し、売上高については店舗数減少により前期実績を下回ったものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、期初の計画を上回る結果となりました。

下半期におきましては、上半期施策の結果を検証するとともに、変わりゆくマーケット環境への柔軟な対応、物価高騰の影響なども見据え、強いアパレルの再構築と、雑貨の更なる拡大に向けた施策により、収益の二本柱体制を確立してまいります。

そして今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q1 当第2四半期連結累計期間の業績についてお聞かせください

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高84億12百万円（前年同期比9.1%減）、営業利益4億54百万円（前年同期比7.4%増）、経常利益4億37百万円（前年同期比10.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億8百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられたことで、外出を中心としたリバウンド需要が高まり、経済活動の正常化とともに客数の回復傾向が一段と進展しました。また春先や夏本番の7、8月に例年以上に気温が高く推移したことから、特にアパレルにおきましては、猛暑効果により夏物、盛夏物を中心に、ブラウス、カットソーなどの需要が高まり、販売の拡大につながりました。

雑貨におきましては、300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」で、暑さ対策、紫外線防止対策等の夏シーズン商品は販売好調となりましたが、コロナ禍における家ナカ需要の反動から、生活雑貨、衛生商品等を中心に販売が縮小したことで苦戦傾向となりました。以上のような状況から、全社の既存店売上高前年同期比は、100.9%となりました。

利益面におきましては、円安と資源高等による原価高騰への対応が課題となり、アパレルにつきましては価格訴求から価値訴求へ品揃えの改善を図るとともに、値下げ販売の抑制に努めブロー消化率を高めたことにより、原価高騰の影響を最小限に抑えることができました。一方、価格転嫁が難しい雑貨の「illusie300」につきましては、継続的に原価高騰の影響を受け課題を残すこととなりました。売上総利益率につきましては、原価高騰の影響を想定した期初計画の51.4%を上回ったものの、前年同期に比べ0.9%低下の52.3%となりました。また経費面におきましては、前期にアパレルの不採算店舗の退店が概ね終了していることや、本社、本部経費についても徹底した削減を進めた結果、営業経費は前年同期比87.8%となり、金額にして5億48百万円の削減となりました。

店舗の出退店におきましては、雑貨の「illusie300」を中心に新規で11店舗を出店し、不採算店舗並びに契約満了に伴う9店舗の退店をした結果、当第2四半期末店舗数は285店舗となりました。

今期は新型コロナウイルス感染症収束後のマーケット環境変化への対応に注力しながら、アパレルにおきましては仕入れと在庫の適正化のためのガバナンス体制強化により、店頭在庫の鮮度改善が進捗する一方で、雑貨におきましては出店拡大を継続したことで規模の拡大は進みましたが、既存店舗については総じて苦戦する結果となりました。この下半期におきましては、アパレルの更なる収益改善とトップラインの向上に努め、引き続き雑貨の出店拡大を図ることにより、中期経営計画最終年度の計画達成に向けた基盤づくりに努めてまいります。

Q2 「中期経営計画」の折り返し地点における、下半期施策についてお聞かせください

下半期におきましては、引き続き「中期経営計画」における強いアパレルの再構築と雑貨の更なる拡大により、収益の二本柱体制を確かなものにするべく、「事業構造改革の推進」、「ガバナンス体制の強化」、「成長戦略」の3つに取り組み、収益構造の改革を更に進めることで最終年度である2025年2月期の計画達成につなげてまいります。

「事業構造改革の推進」につきましては、アパレルにおける価値訴求を前提とした品揃え改善と商品鮮度管理が進んだことから、下半期につきましても価格と価値のバランスを追求し、更なる収益改善につなげてまいります。また300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」につきましては、基軸となる生活雑貨の販売回復に向けたベンダー構成の再構築と、価格帯を広げ品揃えの充実を図るなどの対策を講じてまいります。

「ガバナンス体制の強化」につきましては、マーケット環境変化への対応が業績の安定化を図るうえで最も重要であると考えております。アパレル全体では、新型コロナウイルス感染症拡大前を上回る在庫回転率となり商品鮮度も飛躍的に改善したものの、個店毎には商品が不足し機会ロスの発生という課題が残りました。下半期につきましては、引き続き在庫回転率重視を基本に、個店毎の業績格差是正に取り組み、トップラインの向上に努めてまいります。また雑貨につきましては、アパレル同様の在庫回転率重視を進めた結果、生活雑貨の品揃えが不安定となった反省を活かし、主婦層を中心とした主要顧客に満足頂ける品揃えに注力し、業績の安定化につなげてまいります。

「成長戦略」につきましては、引き続き「illusie300」を中心に新規出店を進めますが、これまでのようなフルラインでの品揃えによる店舗の大型化に限らず、外出需要に特化した品揃えに重点を置いた派生業態の開発など、競合他社との差別化を含め出店余地の拡大にも努めてまいります。またEC事業（ネット通販）については、「NOEMIE（ノエミー）」1号店である原宿竹下通り店に続き、関西地区では初となる大阪梅田のハッピーファイブにも期間限定店舗としてオープンしており、リアル店舗とネット通販の相互送客も順調に進んでおります。またラージサイズ業態につきましても、SNS・インフルエンサーの活用に加え、適切なサイズを推奨するツールの導入など顧客満足度の向上に努めてまいります。

以上、この下半期におきましては、マーケット環境変化への対応、物価高騰による生活防衛意識の高まり等、引き続き厳しい環境が続くことを前提に、今期の業績予想につきましては、売上高167億円（前年同期比4.6%減）、営業利益6億50百万円（前年同期比23.3%増）、経常利益6億20百万円（前年同期比6.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益7億50百万円（前年同期比33.5%増）を見込んでおります。

アパレル事業の概況

General Condition of Apparel Business

アパレル事業におきましては、行動制限緩和に伴う外出着需要が順調に回復しており、今後もリアル店舗の重要性が高まると考えております。下半期につきましても、引き続き店頭在庫の鮮度改善に注力するほか、マーケットニーズに対応した付加価値の高い商品提供と、デジタルツールを活用した販売サービスレベルの向上を図り、収益の更なる拡大に努めてまいります。

また、EC発のZ世代向けブランド「NOÉMIE（ノエミー）」につきましては、この下半期においてもネット通販とリアル店舗の相互送客を推進し、更なる成長につなげてまいります。

Recherie リシェリエ



「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

Re-J リジェイ / SUPURE スプル



《Re-J》「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした“大人カジュアル”を提案するラージサイズSHOPです。

《SUPURE》「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にしたラージサイズSHOPです。

Ludic Park ルディックパーク



遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

木糸土 モクシド / Hare no hi ハレノヒ



《木糸土》木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

《Hare no hi》「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

GAL FIT ギャルフィット



「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

Lilou de chouchou リルデシュシュ



いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

NOÉMIE ノエミー



普段も特別な日もかわいくいたい。扉を開くたびに“ときめきを感じる”お洋服で、クローゼットをいっぱいにしたい。そんな、あなたの願いに寄り添えるように“愛らしくて愛嬌のある魅力的な女の子”をテーマに、お砂糖菓子みたいな甘さと、ちょっぴりダークでかわいらしさのあるお洋服をあなたに提案します。



DAISY MERRY デイジーメリー



大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレでいたい女性に向けて…
かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのリガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクロースを手頃なプライスで提案します。

suzutan スズタン



「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
レギュラー店舗	0	5	△1	112
ルディックパーク	0	1	0	32
リルデシュシュ	0	0	0	2
デイジーメリー	0	0	0	3
リシェリエ、ドスチ	0	2	0	20
ギャルフィット・スズタン他	0	2	△1	47
木糸土・ハレノヒ(※1)	0	0	0	7
ノエミー	0	0	0	1
ラージサイズ店舗	1	0	0	10
アパレル事業合計	1	5	△1	122

(※1) 第36期より「木糸土・ハレノヒ」をアパレル事業に含んでおります。

雑貨事業の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business

雑貨事業におきましては、300円均一ショップ「illusie300（イルーシーサンマルマル）」の出店が進行しており、前期末の144店舗から151店舗へ着実に拡大を続けております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、「illusie300」を9店舗出店しており、収益の拡大に向け積極的な事業構造改革を進めております。この下半期におきましても、引き続き商品MD（マーチャンダイジング）のブラッシュアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症収束に伴う環境変化への対応として、品種構成の見直しと基軸となる生活雑貨商品の品揃えの充実を図ってまいります。

illusie300 イルーシーサンマルマル



「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

INCENSE インセンス



「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
イルーシーサンマルマル	9	3	1	151
インセンス	1	0	0	9
シーベレット	0	0	0	1
雑貨事業合計	10	3	1	161
複合店(※2)	0	1	0	2
全社合計	11	9	0	285

(※2) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

四半期連結財務諸表

Financial Statements

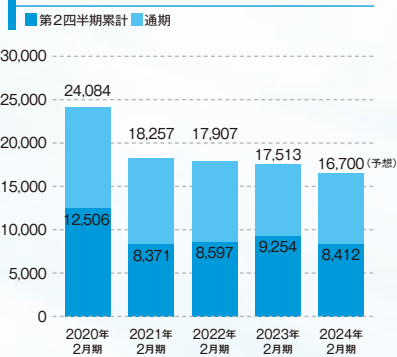
四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)			
	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月20日現在)	前第2四半期連結会計期間 (2022年8月20日現在)	前連結会計年度 (2023年2月20日現在)
■資産の部			
流動資産	5,826	5,961	5,609
固定資産	3,099	3,278	3,159
有形固定資産	909	1,049	927
無形固定資産	45	67	62
投資その他の資産	2,145	2,161	2,169
資産合計	8,925	9,239	8,769
■負債の部			
流動負債	6,628	7,305	6,959
固定負債	557	788	563
負債合計	7,185	8,094	7,523
■純資産の部			
株主資本	1,726	1,132	1,232
資本金	100	100	100
資本剰余金	2,234	2,249	2,249
利益剰余金	△602	△1,212	△1,111
自己株式	△5	△4	△5
新株予約権	13	13	13
純資産合計	1,739	1,145	1,245
負債及び純資産合計	8,925	9,239	8,769

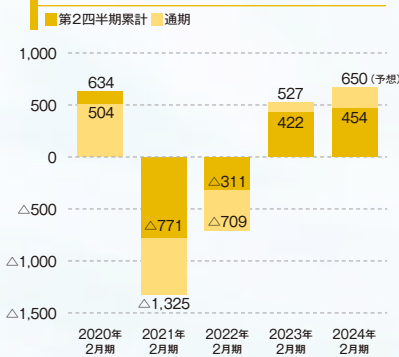
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)		
	当第2四半期連結累計期間 〔2023年2月21日から 2023年8月20日まで〕	前第2四半期連結累計期間 〔2022年2月21日から 2022年8月20日まで〕
③営業活動によるキャッシュ・フロー	415	△253
④投資活動によるキャッシュ・フロー	△48	302
⑤財務活動によるキャッシュ・フロー	△584	265
現金及び現金同等物の増減額	△217	314
現金及び現金同等物の期首残高	3,044	2,209
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,826	2,524

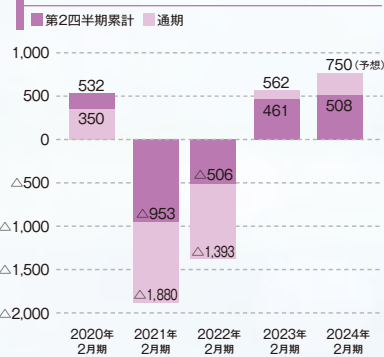
売上高 (百万円)



営業利益 (損失) (百万円)



親会社株主に帰属する
四半期 (当期) 純利益 (損失) (百万円)



四半期連結損益計算書

(単位:百万円)			
	当第2四半期連結累計期間 〔2023年2月21日から 2023年8月20日まで〕	前第2四半期連結累計期間 〔2022年2月21日から 2022年8月20日まで〕	前連結会計年度 〔2022年2月21日から 2023年2月20日まで〕
①売上高	8,412	9,254	17,513
売上原価	4,009	4,335	8,372
売上総利益	4,402	4,919	9,141
販売費及び一般管理費	3,948	4,497	8,614
②営業利益	454	422	527
営業外収益	6	88	104
営業外費用	23	24	50
経常利益	437	486	580
特別利益	83	14	17
特別損失	26	26	132
税金等調整前 四半期 (当期) 純利益	494	474	465
法人税、住民税及び事業税	6	7	13
法人税等調整額	△21	5	△110
親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益	508	461	562

▶POINT

- 売上高は前年同期に比べ8億42百万円減少の84億12百万円となりました。これは主に、行動制限緩和による外出需要の高まりに加え、気温上昇に伴う夏シーズンアイテムの販売が堅調に推移したものの、期首段階での営業店舗数が前年に比べ大幅に減少していることによるものです。
- 営業利益は前年同期に比べ31百万円増加の4億54百万円となりました。これは主に、売上高は減少したもののアパレルにおける価値訴求への品揃え改善と、値下げ販売抑制によりプロパー消化率を高めたほか、徹底したコスト削減による営業経費の削減効果によるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、4億15百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益4億94百万円の計上に対し、売上債権の増加3億59百万円や仕入債務の増加2億48百万円によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、48百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出35百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、5億84百万円の支出となりました。これは主に、借入金の返済による支出5億70百万円によるものです。

企業データ

Corporate Data

会社概要 (2023年8月20日現在)

社 名 パレモ・ホールディングス株式会社
設 立 1984年11月22日
資 本 金 1億円
本 社 所 在 地 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅5丁目27番13号 名駅錦橋ビル6F
従 業 員 数 1,585名 (グループ含む)
(ナショナル社員132名、エリア社員他1,453名)
事 業 内 容 事業子会社の経営管理等
ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2023年8月20日現在)

代表取締役社長 福 井 正 弘
取締役 香 西 雅 弘
取締役 太 田 直 人
取締役 永 田 昭 夫
取締役 赤 塚 憲 昭
常勤監査役 土 田 新 一 郎
監査役 今 枝 剛
監査役 川 口 直 也

注：取締役のうち、永田 昭夫、赤塚 憲昭の両氏は社外取締役であります。
監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2023年8月20日現在)

発行可能株式総数	普通株式	27,350,000株
	A種優先株式	10,000株
発行済株式の総数	普通株式	12,051,384株
	A種優先株式	265株
株 主 数	普通株式	8,804名
	A種優先株式	1名

大株主 (2023年8月20日現在)

株 主 名	普通株式 持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社西松屋チェーン	2,087	17.35
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.37
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	274	2.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	240	1.99
BNY GCM ACCOUNTS M NOM	224	1.86
JPモルガン証券株式会社	217	1.80
個人株主A	211	1.76
日本証券金融株式会社	211	1.75
GMOクリック証券株式会社	210	1.75
パレモ従業員持株会	199	1.66

注：持株比率は、発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する割合であります。

株主構成 (2023年8月20日現在)

